

教育長 田中 康寛



令和5年度が始まりました。気持ち晴れやかに、新年度をスタートしたいと思います。

市立学校における新型コロナウイルス感染症の1日あたりの新規感染者数はゼロの日があるものの、インフルエンザは1日あたり15名前後となっています。マスク着用の考え方が見直され、学校教育活動にあたってはマスクの着用を求めないことが基本となりますが、第9波の到来とならないよう、お互いに体調管理に努めましょう。

教育長通信のタイトルにつきましては、「『万里一空』と『堅忍不拔』の思いを胸に」を、コロナ収束まで続けたいと考えています。

先月号では、令和5年度の市川教育の方向性をお知らせしましたが、各園・学校において具現化し、教育現場に努めて励むことの一例を挙げてみます。いじめの未然防止や不登校児童生徒への対応として、教育委員会では、ほっとホッと訪問相談やライフカウンセラーの配置などにより、悩みを相談しやすい体制づくりに努めています。教職員は、子どもの表情や振る舞い、発言などをよく観察し、小さな変化も周囲の先生方と積極的に共有するとともに、子どもや保護者に寄り添った手厚い指導を行ってまいります。本市では、健康寿命日本一のまちを目指しています。新年度から市立全学校において学校給食費を無償としますので、これを契機に、各園・学校においては、包括的な健康教育として、心の教育や食育の充実に取り組みます。養護教諭や栄養教諭の専門性を生かしながら、教職員の共通理解を図り、組織的に、効果的に進めてまいります。

学習用端末（タブレット）が全校配付されてから、約1年が経ちました。授業でのICTの活用状況は、全体としては進んでいるものの、教職員のICT活用能力や指導者用デジタル教科書の活用には差が出始めているようです。教育委員会では、今後も具体的な活用方法を示すことができるよう努めてまいります。学習者用デジタル教科書の導入も始まっています。ICTを利活用した学校教育は、新しいことではなく、現在のスタンダードと捉えて取り組んでまいります。

年度末から年度初めは様々な引継ぎがあります。連絡ミスや個人での判断の誤り、情報管理の甘さなどによって不祥事が引き起こされないよう十分に注意を払ってまいります。

この4月から96名の新規採用者が市川市で教職員人生をスタートさせました。各園・学校では教職員一丸となり、子どもたちに寄り添った指導に努めてまいります。1年間どうぞよろしくお願いいたします。